

○国保レセプトを用いた二次医療圏ごとの受療動向について

(1)提供物について

受療動向に関する 16 項目、入院・外来診療全体を対象とした令和元年度の流入・流出状況（01～04）、がん全体、骨折、心疾患、精神疾患、糖尿病、脳血管障害の疾患を対象とした令和元年度の入院・外来診療における流出状況（05～16）を示す資料を作成した。対象は北海道医療計画に記載された 21 の医療圏および 179 の市区町村とした。

(2)使用データの特徴

対象レセプトは令和元年度の診療分であり、令和元年 4 月診療分から令和 2 年 3 月診療分のデータを使用している。対象としたレセプトは保険請求分であり、生活保護等の公費単独のデータ、自賠責または労災等、医科保険の対象でないものは含まれていない。また、保険請求では国民健康保険（以下国保）、退職国保、後期高齢者医療制度（以下後期）のレセプトのみを用いた。これは被用者保険レセプトは必ずしも保険者と患者の居住する地域が紐づかず、レセプトデータは DPC データとは異なり、患者所在地の郵便番号情報がなく、患者の受療動向の集計には適さないためである。そのため集計結果を見るうえでは地域により公費の割合が異なること、国民健康保険の加入者は一般的に高齢者に偏っており、必ずしも医療需要全体を表していない可能性があることに留意する必要がある。

(3)受療行動のグラフ・表の見方について

①流入に関する項目について

本データでは流入の定義を「当該二次医療圏・市区町村（以下、当該地域）に居住しない住民が当該地域に所在する医療機関を受診すること」とした。当該データでは縦軸の市区町村は患者が受診した医療機関の所在地、横軸は当該地域に所在する医療機関を受診した患者の市区町村保険者である。横軸の「その他」には居住する市区町村が特定できない国民健康保険組合に加入している患者が割り振られている。

②流出に関する項目について

本データでは流出の定義を「当該二次医療圏・市区町村（以下、当該地域）に居住する住民が当該地域外に所在する医療機関を受診すること」とした。当該データでは縦軸の市区町村は患者の居住地であり、横軸は受診した医療機関の所在地である。横軸の「その他」の欄には当該地域に居住する患者が北海道外に所在する医療機関を受診した件数を示している。表において緑の網掛けは当該地域内での移動であり、当該地域においてどれだけ医療が提供されているか、当該地域内で医療を担っている市区町村はどこかを示すものである。